

## 主題：聖書の心臓部——ガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサイ

メッセージ 5

### エペソ人への手紙(1)

空間と時間を超越して天上と永遠の中において、神のみこころの奥義を知り、  
神聖な三一の神聖な分与を経験してキリストのからだとしての  
召会を生み出し、建造する

聖書：エペソ 1:3, 5, 9, 11, 22-23. 2:6. 3:16-19. 4:4-6, 12, 16

- I. エペソ人への手紙の特別で独特な特徴は、それが天上から、永遠から、神の心から、そして神の永遠の定められた御旨から書かれているということです——エペソ 1:3, 5, 9, 11, 3:11 :
- A. ローマ人への手紙とは異なり、エペソ人への手紙は罪人の状態から語っているのではなく、神の心と永遠の定められた御旨から語っています——1:5, 9, 3:11。
  - B. エペソ人への手紙は天上から語っており、地から語っているではありません。そしてそれは永遠から語っているのであり、時間から語っているではありません——1:3-5, 3:11。
    - 1. エペソ人への手紙はわたしたちを天上の中へともたらすので、わたしたちは自分の状態に焦点を合わせるのではなく、むしろ天上の中にいるべきです——2:6。
    - 2. エペソ人への手紙はわたしたちを永遠の中へともたらすので、わたしたちは時間の中にとどまるのではなく、むしろ永遠の中にいるべきです——1:4-5, 10, 3:11。
  - C. わたしたちはエペソ人への手紙を理解するために、天上の中へと、永遠の中へと、神の心の中へと、そして神の永遠の定められた御旨の中へと入る必要があります。
- II. 神は「みこころの奥義をわたしたちに知らせてくださいました。これは、神がご自身の中で計画された彼の大きい喜びによるもの」です——エペソ 1:9 :
- A. 永遠において、神はみこころを計画されましたが、このみこころは彼の中に隠されていたので、それは奥義でした——5, 11 節. 5:17。
  - B. 神はキリストの中で彼を啓示することを通して、この隠された奥義をわたしたちに知らせてくださいました。すなわち、キリストの肉体となること、十字架につけられること、復活、そして昇天を通して知らせてくださいました——1:7, 20-22. 4:8-10。
  - C. 神のみこころの奥義をわたしたちに知らせようとすることは、神の大きい心の喜びでした——1:9。
    - 1. 神の大きい喜びとは、彼がご自身の中で計画され、時代の満了時のエコノミーへと至るものでした——10 節。
    - 2. 神ご自身は彼の永遠の定められた御旨の開始、起源、領域です。何も彼の永遠の定められた御旨を覆すことはできず、すべては彼の永遠の定められた御旨のために働いており、そして彼は永遠の定められた御旨についてだれとも相談されません——11 節. 3:11。

Ⅲ. エペソ人への手紙の重要な中心点は、神聖な三一の神聖な分与であり、それはキリストのからだとしての召会を生み出し、建造するためです：

- A. 第一章が啓示しているのは、どのように父なる神が永遠の中で肢体を選びあらかじめ定め、子なる神が彼らを贖い、霊なる神が彼らに証印を押し担保を入れて、彼ご自身を彼の信者たちの中へと分与して、召会を形成したかです。この召会はキリストのからだであり、すべての中ですべてを満たしている方の豊満です——3-14, 18-23 節：
1. 主の回復における根本的な真理は、三一の神（父、子、霊）が、父のあらかじめ定めること、子の贖い、霊の証印と担保を通して、ご自身をわたしたちの中へと造り込まれたということです。
  2. キリストのからだは、三一の神がご自身を命また命の供給として信者たちの中へと分与することによって、存在に至ります。
  3. 神の栄光の賛美が三重に述べられていることは、三一の神の三重の分与を表徴します——6, 12, 14 節。
- B. 第二章が示しているのは、すべての信者たちが神聖な三一の中で、ユダヤ人信者も異邦人信者も、子なる神を通して、霊なる神の中で、父なる神に近づくことができるということです——18 節：
1. わたしたちは完成者また手段である子なる神を通して、執行者また適用である霊なる神の中で、創始者またわたしたちの享受の源である父なる神に近づくことができます。
  2. 父の分与は彼の傑作を生み出し、子の分与は新しい人を生み出し、霊は一つからだの中でわたしたちを父へともたらしめます。その結果、召会は建造され、神の永遠のエコノミーは成就されます——10, 15-16, 21-22 節。
- C. 第三章で、使徒は、父なる神が霊なる神を通して信者たちを内なる人の中へと増強してくださるよう、また子なる神であるキリストが彼らの心の中にご自身のホームを造ることができるように、また彼らが満たされて神の全豊満へと至り、キリストのからだとしての召会となるようにと祈りました——6, 16-19 節：
1. 父は源であり、霊は手段であり、子は目的であり、三一の神の豊満は結果です。
  2. 三者はそれぞれ自分自身のためではなく、三一の神の豊満のために行動します。これは神聖な三一の美しい絵です。
- D. 第四章は、どのように手順を得た神が霊、主、父として、キリストのからだをミングリングされて、からだの肢体が神聖な三一を経験するかを描写しています——4-6, 12, 16 節：
1. すべての上におられる父なる神の神聖な分与と、すべてを貫いている子なる神の神聖な分与と、すべての中におられる霊なる神の神聖な分与によって、キリストのからだのすべての肢体は三一の神を経験し享受することができます。
  2. これらの節は四人のパーソン（一つからだ、一つ霊、一つ主、一つ父なる神）が、共に一つの実体としてミングリングされて、キリストの有機的なからだとなっていることを啓示しています。こういうわけで、三一の神とからだは四一です。